# 小学校でのコンピュータ導入初期段階における メディアリテラシーの育成

Education of media-literacy at introduction of computer in elementary school

今 田 実（和歌山大学教育学部附属小学校）
Minoru IMADA (imada@center.wakayama-u.ac.jp)

私達の身の回りには様々なメディアが存在する。ここ数年，めざましく進歩をしているコンピュータもその一つである。ネットワーク化されているコンピュータ，特にインターネットに接続されているコンピュータは，メディアとしての存在がクローズアップされよう。だから，インターネット接続されているコンピュータに目が向いていくのは当然な動きだが，こんな時だからこそ，今まで利用してきたメディアにも今一度目を向け，それぞれのメディアが持つ特性を理解させ，選択利用させていくことに価値が生まれてくると考える。そこで，小学校でのコンピュータ導入初期段階において，児童がどのようにメディアリテラシーを身につけていくのかを，児童の意識を追いながらモデルを作成した。

キーワード：情報教育，小学校，メディアリテラシー

## 1 はじめに

私達の身の回りにある様々なメディアを次のように分類した。人と人との間に成立するヒューマンメディア。紙を通じて成立するペーパーメディア。この中には活字だけでなく写真も含んで考えている。ビデオ映像を通じて成立する動画メディア。そして，コンピュータなどの電子メディア。この中には，活字，画像，動画映像，音声など他のメディアで対応できないものが複数含まれていることが特徴だと言える。今までのメディアであればそのメディアが持つ伝達方法は一つないし，二つのように，少ないものであった。しかし，電子メディアは，今まで以上にメディアが持つ伝達方法が複数存在するために，何でもかんでも電子メディアがすばらしいんだと言う印象を持つと考えられる。実際，本校でもコンピュータが導入されたとき，それまでにある程度コンピュータの知識のある児童は，「○○の活動をする」と聞くやいなやコンピュータの前に座るという現象が見られた。これは，メディアの特性を十分理解していなが故の行動であると考えられる。

このような児童，そしてまだコンピュータの知識の少ない児童にどのようなかたちで特性を含めメディアリテラシーを育てていくかということが問題となる。

坂本昴（1987）や吉田偵介（1992）は，メディアリテラシーを「わかる（特性理解）」「使う（操作と学習での活用）」「作る（メディアを用いた作品づくり）」の3領域に分類している。坂本や吉田が示しているように，メディアリテラシーを，つくる，活用，特性ということを柱に捉

えた。そして，児童の学習と言うことを考えたとき，その分類された領域の関係に「つくる」→（「活用」・「特性」）という方向性を持たせたい。なぜなら，特性を前面に押し出して教えていく中でその機能を使ったりそれを生かした作品をつくっていくというのではなく，つくりたい作品（目的）があって学習がスタートし，児童同士の関わりやおもいの実現に付随して出てくるのが「活用」であったり「特性」であると考えているからだ。児童の学習を，人と人，人とものなどの関わりの中から主体的な思考や工夫をしていくことと捉え，そこで思考されたり工夫されたりしてこそ，情報や技能などが生きた知識となっていくと考えている。このようなステップがあってメディアリテラシーが生きたものとなって子供のなかに定着していくのではないかということだ。

このような学習のなかでメディアリテラシーがどのようについていくのか，どのように意識されていくのかということを，児童の毎時間ごとの学習の中での意識を聞き取り，明らかにしていくことを問題とした。

## 2　単元目標

1年間に次のような2単元を組んだ。

第1学期…「みんなで研究し，発表しよう－模造紙からインターネットまで－」…実践Ⅰ

第2～3学期…「私の研究―いろいろなメディアを使って―」……実践Ⅱ

単元目標は次のように設定した。

◆「みんなで研究し，発表しよう－模造紙からインターネットまで－」の単元目標

・伝えたい人に対して適切な表現方法で，情報をまとめることができる。

・情報機器による多様な表現方法とその特性を知る。

・機器の操作に慣れ，情報の加工技能を身につける。

◆「私の研究―いろいろなメディアを使って―」の単元目標

・研究課題を決め，研究内容を深めるために自ら目標を設定し追求活動を行うことができる。

・適切なメディアを選択し，情報収集や意見を盛り込んだまとめができる。

・情報機器による多様な表現方法やコミュニケーション方法などの特性を利用できる。

・研究内容をより高めようとしたりよりわかりやすくまとめようとしたりできる。

実践Ⅰでは，いままでにも使ってきているメディアと新しく導入されたコンピュータメディアの特性を作品づくりを通して見直したり，新しく知ったりすることを中心のねらいとした。実践Ⅱでは，実践Ⅰで身につけたことを基に，研究課題を追求していくなかでそれらを活用していくことを中心のねらいとした。

## 3　実 践 Ⅰ

### (1)　「みんなで研究し，発表しよう－模造紙からインターネットまで－」での試み

いろんな加工方法や表現メディアのバリエーションの中から，それぞれの加工方法，メディアの特性を理解して相手に研究内容をうまく伝える方法を選択，加工して発表する力を育てることに重点を置いて次のことを試みた。

i　内容も加工方法もプレゼンテーション方法も違ったグループ（個人）を作り，同時に学習

活動を展開させた。

ii　研究内容をまとめ，学級内，学校内，インターネットをはじめとしたコンピュータネットワークで公開する機会を持った。

iii　メールやメッセージをいただけるシステム，環境を作った。

iv　校内の環境（ワークスペース，ホール，コンピュータ）を生かした。

v　子供の学習活動に学級外の人に積極的に協力していただいた。

| グループ（個人） | 研究課題 |
|---|---|
| 柏木、田中、平石 | 和歌山市のいい所 |
| 河野、岸、雑賀、浜田 | 子供から見た和歌山市のいいところ |
| 北本、中村 | 昔の遊びをさいげんしよう |
| 川口、坂上、中西 | 昔の遊びをたいけんしよう |
| 山下 | 和歌山の方言 |
| 八塚、松田 | おく山の植物 |
| 岡本、小田、竹林 | おくやまのこん虫 |
| 上島 | 明日香路めぐり |
| 塩津 | 服装について |
| 山路 | 和歌山市の空情報 |
| 東、高橋、宮崎 | いろいろな公園を知らせよう！ |
| 池田、上村、紀平、武一 | お城の動物シリーズ |
| 打田、小畑 | 和歌山城の動物 |
| 中西、藤田、松岡 | 和歌山城の動物と植物を見つけよう！ |
| 山本 | 和歌山城の植物 |
| 永嶋、前田 | 「みかんリンク集」 |

(2)　「みんなで研究し，発表しよう－模造紙からインターネットまで－」の学習活動

| 子供の学習活動と意識 | 支　援 |
|---|---|
| ◇学習計画を立てよう。（2時間） | |
| ①研究したいテーマを出し合って、それぞれの値打ちについて話し合う。<br>②グループ、個人で学習計画を立てる。 | ・活動のイメージが持てない子供には、図や言葉で説明をする。<br>・発表の対象を意識させる。 |
| ・自分たちがやろうとしていることの値打ちはどこにあるかな。<br>・まとめのイメージと見せる対象とがぴったりだろうか。<br>・どんなものが必要か。何を使ってデータを集めたらいいかな。 | ・まとめのイメージ通りに表す方法を求めてきたら、その方法を教える。 |
| ◇調査をしよう。（4時間＋課外） | |
| ①～④計画にもとづいて調査をしよう。（データ収集） | ・カード形式でデータを整理させる。<br>・サーバーにファイルフォルダーを作って整理させる。 |
| ・データとして使えるものと使えないものを選択しよう。<br>・データを整理しよう。 | ・情報機器の課外使用を求めてきた子供に対して場を提供する。 |
| ◇まとめをしよう。（4時間＋課外） | ・アプリケーションの使い方、情報機器の使い方を必要に応じて教える。 |
| ①～②イメージ通りにまとめる技能を知る。<br>③～④まとめの典型をつくる。 | ・まとめのイメージを持たせる。<br>・典型を作らせて、公開の準備をさせる。 |
| ・まとめのイメージはできるようになったけど、どうすればそうできるのだろう。<br>・イメージ通りにまとめられた。 | ・特に、インターネットに載せるデータづくりを考えているグループには、子供が作った基礎データを教師が加工して子供のイメージ通りのものを作ってあげる。<br>・④終了後、典型を公開し情報交換をさせる場を作る。 |
| ◇まとめを修正しよう。（4時間＋課外） | |
| ①友だちからアドバイスをもらい、修正する。<br>②～④まとめあげる。 | ・技能的なことを子供同士助け合わせる。<br>・特に、インターネットに載せるデータづくりを考えているグループには、作業カードを用意する。 |
| ・友だちのアドバイスを生かしてまとめよう。<br>・イメージ通りにまとめられた。<br>・これからも続けてやっていきたいなぁ。 | |
| ◇発表会をしよう。（2時間） | |
| ①～②互いの作品のよさを見つけよう。 | ・相手や方法に目を向けてよさを考えさせる。<br>・情報機器による多様な表現方法をみんなに広める。 |
| ・いろんなまとめ方があり、それぞれのよさがあるんだ。 | |

### (3) 子供の意識の変化Ⅰ（「みんなで研究し，発表しよう－模造紙からインターネットまで－」）

【第１次，第１時】

考えてきた研究課題の値打ちについて話し合った。子供から出された「値打ち」判断の視点は次の２点だった。

- 本やインターネットのホームページに載っていることをそのまま使って自分の文章を書くということはだめだ。（それだったら，その本を読む方がよく分かるだろう）
- みんなが知っても意味のないものはダメだ。

【第１次，第２時】

全時間数16時間の配分を子供たちに知らせ，それをどのように使っていくか話し合った後，それぞれのグループで計画を立てた。研究テーマ，メンバー，対象，方法は次の通りである。

| 研究テーマ | メンバー | 対象 | 方法 |
|---|---|---|---|
| 和歌山市のいい所 | 柏木、田中、平石 | ６年生 | 紙(写真、文章) |
| 子供から見た和歌山市のいいところ | 河野、岸、雑賀、浜田 | 大勢 | C(写真,文章) |
| 昔の遊びをさいげんしよう | 北本、中村 | 5,6年生 | 紙（絵、文章） |
| 昔の遊びをたいけんしよう | 川口、坂上、中西 | 大勢 | C(写真,動画,文章) |
| 和歌山の方言 | 山下 | 大勢 | 本→C(文章,音声) |
| おく山の植物 | 八塚、松田 | 附属小 | 紙（写真、文章） |
| おくやまのこん虫 | 岡本、小田、竹林 | 大勢 | C(写真,文章) |
| 明日香路めぐり | 上島 | ６年生 | 本（写真、文章） |
| 服装について | 塩津 | ６Ａ | 紙（絵、文章など） |
| 和歌山市の空情報 | 山路 | 大勢 | C(写真,文章) |
| いろいろな公園を知らせよう！ | 東、高橋、宮崎 | 大勢 | C(写真,文章) |
| お城の動物シリーズ | 池田、上村、紀平、武一 | 動物愛好家 | C(写真,文章) |
| 和歌山城の動物 | 打田、小畑 | 大勢 | C(写真,文章) |
| 和歌山城の動物と植物を見つけよう！ | 中西、藤田、松岡 | 大勢 | C(写真,動画,文章) |
| 和歌山城の植物 | 山本 | ６Ａ | 本（写真、文章） |
| 「みかんリンク集」 | 永嶋、前田 | 大勢 | C(「みかん」検索) |

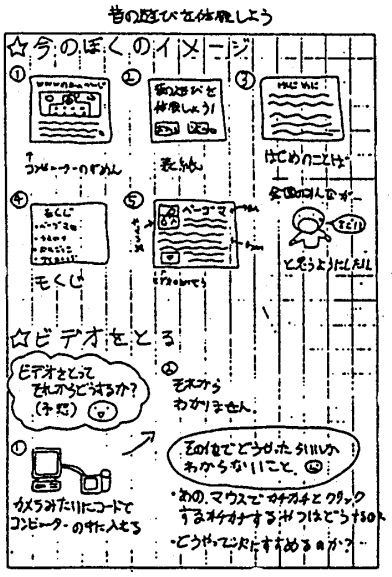
対象を意識させることにより，子供たちはメディアを選択しようとしていることがうかがえる。

調査活動が終わったグループから，データの整理，まとめに入っていった。

【第３次，第１・２時，第３・４時】

◆カード形式でデータ整理しているものを，デジタル化したりノートや模造紙にまとめる。

自分がまとめたいイメージに一番近いものに，自分が知っている技術で加工させた。また，データはすべてカード形式で整理させた。カード形式を選んだのは「１ページ」「ホームページの一画面」「模造紙などに貼ることもできる」などのイメージ的，機能的に優れたところがあるからだ。ファイルの場合はＡ４コピー用紙（片面だけ），ノートの場合はＢ５サイズ切り取り可能なもの，コンピュータの場合は，子供たちが自分の思い通りのイメージを形にすることのできるクラリスワークス・ドローにまとめさせた。画用紙，模造紙の大きさは選択させた。




◆イメージ通りのまとめをつくる。

子供たちは，模造紙や画用紙，ノートなどにまとめることは今までに何度も経験してきているので，教師の技術的なアドバイスなしにどんどんすすんで活動することができる。しかし，イメージは持っているもののそれをどうすれば実現できるか分からないグループもある。インターネットでホームページ探検したときに「かちゃかちゃとダブルクリックをすれば次の画面が表れるようなものをつくりたい」といったものがそうである。右のイメージ図は，「昔の遊びをたいけんしよう」グループの坂上君が描いてきたものだ。このようなときには教師が技術サポートをしイメージ通りのものをつくってあげた。

（和歌山大学から野中先生，豊田さん（和歌山大学大学院生）に来ていただいて技術サポートを手伝っていただいた。）具体的なイメージを他の子供にも持たせるために，坂上君のイメージをみんなに印刷して配布した。

◆技術サポートしたこと

- ビデオテープから必要なところだけ，動画のデータに加工した。
- 子供が作っているカードデータをインターネット用のデータに変換した。（画像の処理，文章の処理，地図にボタンを作る。）

◆まとめをしようでの，子供たちの意識と活動

- 技術的なサポートをして，自分たちがイメージしていたものになったとき，子供たちの「わーぁ」「こうしたかったんよ」などの声が出た。また，まだサポートしてもらっていないグループからは，「ぼくたちも早くあんなふうにしてほしい」という声が聞けた。
- 「昔の遊びをさいげんしよう」グループは，取材してきたことを模造紙にまとめ，5，6年生に見てもらうことを当初の目的にしていた。ある程度仕上がってきたこと，みんなのしていることを見たことで，「模造紙にまとめたのをコンピュータでかき直したい。そうしたらもっと多くの人に見てもらえるから」と言い，まとめをデジタル化している。「おく山の植物」グループも同じことをしかけている。
- 「明日香路めぐり」「和歌山の方言」は，ともに本形式にまとめていた。手がきてしていたのだが「ワープロで仕上げた方がきれいだし，その後もっと多くの人に見てもらえるようにできるから」ということで，データをデジタル化している。

◆データの公開をし，情報交換をする。

朝の会を利用してそれぞれのグループがしていることを紹介したり，掲示板を利用したりするなどして常時情報交換できる場を作った。

まとめをしたり，情報交換の場を設けることで，子供たちの意識も変化してきた。だんだんまとめのイメージが持てるようになってきたと同時に，みんなの作品を見たり，他のホームページを見たりする中で，イメージに工夫が見られてきた。また，それぞれのメディアの特性を捉えて利用する子供も現れてきた。具体的に整理すると次の通りである。

**◆発表会前の子供の意識**

- 本でまとめたグループ（個人）は，身近な人に見てもらいやすい。かきやすいし，持ち運びが大変便利と考えている。
- 模造紙でまとめたグループは，見せやすいし，どこでも開くことができる。また，まとめやすいと考えている。
- コンピュータのデジタルデータとしてまとめたグループは，はじめは手がきでファイルにまとめて身近な人に見せることを考えているが，見てもらいやすいように，仕上げがきれいになるようにデジタル化しようと考えている。
- インターネットのホームページに載せたグループは，より多くの人に，また，遠くの人に見てもらいたいと考えている。

これらのことから，本，模造紙，手がきからデジタルデータにまとめようとしているグループに共通するのは，「自分がまとめやすい」，相手の立場を考えた「見てもらいやすい」という自他両面に対する意識があることだ。ホームページに載せようというグループは「多くの人に，遠くの人に」というコンピュータ自身の持つ機能に対する意識があることだ。

この結果から次のカテゴリーを設定した。

表１　「情報教育における学習活動の子供の意識のカテゴリー」

| |
|---|
| カテゴリーＡ：メディアの持つ特性・機能面 |
| カテゴリーＢ：研究内容・プレゼンテーション面 |
| カテゴリーＣ：意欲面 |

◆発表会後の子供の意識

子供たちの意識を詳しく見るために，表１「情報教育における学習活動の子供の意識のカテゴリー」を次のように組み合わせた。

表２　「情報教育における学習活動の子供の意識のカテゴリー」の組み合わせ

| |
|---|
| ＡＢＣ：メディアの持つ特性・機能面，研究内容・プレゼンテーション面と意欲面のすべてのカテゴリーを含む。 |
| ＡＢ：メディアの持つ特性・機能面と研究内容・プレゼンテーション面のカテゴリーを含む。 |
| ＡＣ：メディアの持つ特性・機能面と意欲面のカテゴリーを含む。 |
| ＢＣ：研究内容・プレゼンテーション面と意欲面のカテゴリーを含む。 |
| Ａ：メディアの持つ特性・機能面のカテゴリーを含む。 |
| Ｂ：研究内容・プレゼンテーション面のカテゴリーを含む。 |
| Ｃ：意欲面のカテゴリーを含む。 |
| その他：ＡＢＣのカテゴリーを含まない。 |

現段階でのクラスの子供たちの意識は，表３と表４の通りである。意識のよみとりは自由作文からそれぞれのカテゴリーに関する記述があるかどうかで行なった。これより以下のよみとりも，自由作文から行なった。

表３　発表会後の子供の意識（組み合わせ別）

| | | ＡＢＣ | ＡＢ | ＡＣ | ＢＣ | Ａ | Ｂ | Ｃ | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ホームページ(人) | | 4 | 5 | 1 | 4 | 3 | 2 | 3 | 3 | 25 |
| | % | 16.0 | 20.0 | 4.0 | 16.0 | 12.0 | 8.0 | 12.0 | 12.0 | 100 |
| 本、模造紙など(人) | | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 2 | 11 |
| | % | 18.2 | 18.2 | 0.0 | 27.3 | 0.0 | 18.2 | 0.0 | 18.2 | 100 |

表４　発表会後の子供の意識（カテゴリー別）

| | Ａ | Ｂ | Ｃ | その他 | のべ人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ホームページ(人) | 13 | 15 | 12 | 3 | 43 |
| ２５人に対する% | 52.0 | 60.0 | 48.0 | 12.0 | |
| 本、模造紙など(人) | 4 | 9 | 5 | 2 | 20 |
| １１人に対する% | 36.4 | 81.8 | 45.5 | 18.2 | |

◆メッセージや電子メールをもらった後の子供の意識

表５　メッセージをもらった後の子供の意識（組み合わせ別）

| | ABC | AB | AC | BC | A | B | C | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ホームページ(人) | 4 | 0 | 0 | 18 | 0 | 1 | 1 | 1 | 25 |
| % | 16.0 | 0.0 | 0.0 | 72.0 | 0.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 100 |
| 本、模造紙など(人) | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 2 | 0 | 0 | 11 |
| % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 81.8 | 0.0 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 100 |

表６　メッセージをもらった後の子供の意識（カテゴリー別）

| | A | B | C | その他 | のべ人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ホームページ(人) | 4 | 23 | 23 | 1 | 51 |
| ２５人に対する% | 16.0 | 92.0 | 92.0 | 4.0 | |
| 本、模造紙など(人) | 0 | 11 | 9 | 0 | 20 |
| １１人に対する% | 0.0 | 100.0 | 81.8 | 0.0 | |

◆抽出児の意識の変化

実践Ｉにおいて，クラスの子供たちの意識を総括的に追ってきたわけだが，詳しく見るために抽出児の意識の変化を追ってみる。

はじめからホームページで研究を公開していくことを考えていた児童
・・・・・・「お城の動物シリーズ」武一君
はじめは手がきで模造紙やファイルにまとめていこうと考えていた児童
・・・・・・・・「和歌山の方言」山下さん

「図１　抽出児の意識の流れ」から次のことが言える。

山下さんの意識の流れで，情報交換の場がイメージを広げたり，メディアの特性をとらえたりすることに生きていると言える。発表会のときやメッセージをもらったときの意識から，内容と同時にプレゼンテーションのことを考えた意識の高まりがよみとれる。武一君の流れからも，情報交換の場や発表会の場，そしてメッセージをもらうことにより，作品に技術的なことをだけでなく，見てもらう相手のことを考え合わせた意識が生まれてきている。また，同時に内容を増やしたり高めたりしていかなければならないことも意識することができているとよみとれる。

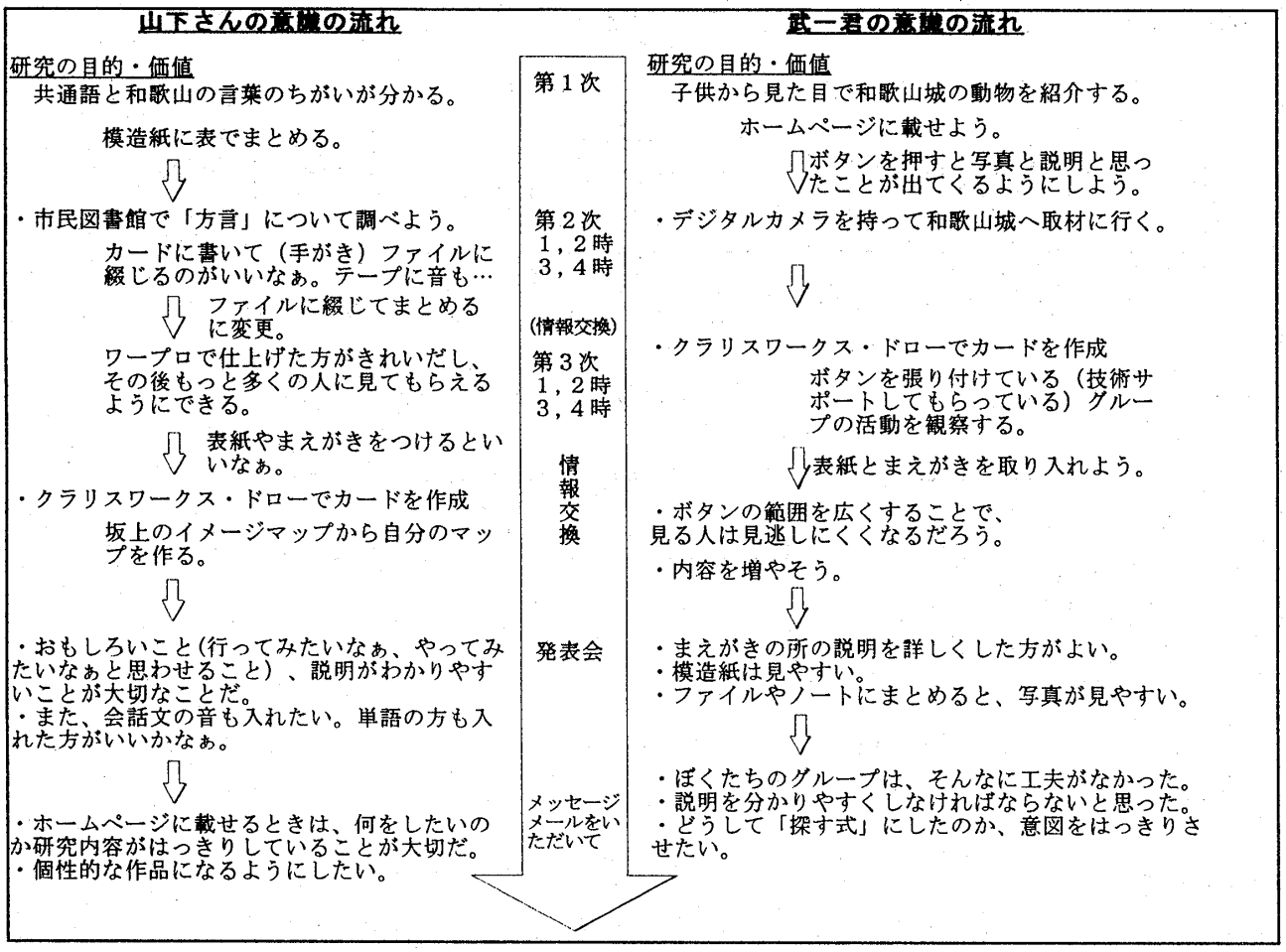



図１　抽出児の意識の流れ

### (4)　みんなで研究し，発表しよう－模造紙からインターネットまで－」のまとめ

クラスとしての総括的なとらえや，抽出児の意識の流れのとらえから，次のことを考察した。はじめからホームページで研究を公開していくことを考えていた子供は，今までにほとんど経験していなかった加工手段を選んでいるために，はじめの段階ではその加工手段が学習の対象になる。それに対して，本や模造紙，手がきからデジタルデータにまとめようとしている子供は，まず自分の知っている加工手段を選んでいるので，はじめの段階で，内容やプレゼンテーション面が学習の対象になる。前者を「特性・機能型」，後者を「内容・プレゼンテーション型」とする。次の段階（発表会）では，ｉの試みにより，「特性・機能型」の子供は「内容・プレゼンテーション型」の子供の意識を取り入れる活動が見られた。「内容・プレゼンテーション型」の子供は「特性・機能型」の子供の意識を取り入れる活動が見られた。学級という集団で学習している意味がここに出てきたと考えられる。互いの学習を観察しあい，影響しあい学習が深まったと言える。

次の段階（メッセージ，メール）では，ii，iii，iv，ｖの試みで「特性・機能型」の子供も「内容・プレゼンテーション型」の子供も「内容・プレゼンテーション型」に意識が向いた。しかし，「特性・機能型」の意識がなかったわけではない。その意識を十分持ちつつ「内容・プレゼンテーション型」に向いていった。

iii，iv，ｖの試みは，子供の学習活動を意欲面で支えていくことができた。

## 4　実践II

### (1)　「私の研究―いろいろなメディアを使って―」での試み

前単元で身に付けたこと，育った意識を生かしていきたい。メディアの特性や機能面については，ある程度身に付いてきているし，機器についてもどうにか自分で扱っていけそうだという思いももてるようになってきている。だから，本単元では，単元目標の一つ目，「研究課題を決め，研究内容を深めるために自ら目標を設定し追求活動を行うことができる」に重点を置いた展開をしていきたいと考えた。「つくる」から「活用」に向けての方向性を出していきたいと考えたからだ。また，その過程で「特性」をさらにつかませていきたい。学習活動への支援として，次の3つの視点を持った。

ア）内容的支援

基本的には子供たちの追求活動の中から，内容的な高まりのある目標を持たせるという考え方をしている。ネットワーク（インターネット，メディアキッズ）利用，掲示，中間報告会，人との関わり，などを通して，目標を子供自身がもてるように間接的に支援をしていきたい。

イ）技術的支援

イメージを子供自身が持っているものの，それを実現する方法を知らなかったりできなかったりしたときに，積極的な支援を行う。子供がイメージを持っていないときには行わない。

情報機器の使用については，できるだけ自由度の高い利用の仕方をさせていく。また，積極的に和歌山大学，大学院生，大学生などに技術協力してもらうことを考えている。

ウ）情意的支援

学習経過を把握して，子供たちの思いや願いを実現できるようにしていきたい。「自分の手でできるのだ」という思いを実感として味わわせるようにしていくことが情意的な支援となると考えている。

特に，アは，重点と関わりがあることから，展開の中に，内容的支援を多く取り入れていくようにした。取材や，研究のまとめをする段階で，人とのコミュニケーションを取り入れていく場を意識させていくというのが本単元における試み（vi）である。

### (2)　「私の研究―いろいろなメディアを使って―」の学習活動

本単元の研究課題は，前単元の課題を引き続きしてもよいし，また新たに課題を設定してもよいことにした。子供たちの設定した課題は，右の通りである。

| グループ(個人) | 研究課題 |
|---|---|
| 上島 | 明日香路めぐり |
| 山下 | 和歌山市の方言 |
| 池田、上村、紀平、武一 | 和歌山城シリーズ |
| 岡本、小畑、打田 | 和歌山城の動物 |
| 浜田、藤田 | 和歌山城の植物 |
| 小田、田中 | 和歌山城のプランクトン |
| 山本 | 和歌山城の自然 |
| 松田、雑賀、岸 | 附属小の植物 |
| 北本、中村、河野 | 和歌山市のだがしやさんについて |
| 宮崎、高橋 | 今と昔のおかしのちがい |
| 中西、竹林 | 昔の言葉と今の言葉 |
| 柏木、坂上、前田、永嶋、川口 | 楽しい遊び |
| 山路、東 | 空の名前 |
| 平石 | 関西空港について |
| 塩津、八塚 | 中国の街を歩こう |
| 中西、松岡 | 国際交流を楽しもう |

| 子供の学習活動と意識 | 支　　援 |
|---|---|
| ◇学習計画を立てよう。（２時間）<br>①研究テーマと内容を考える。<br>②グループ、個人で学習計画を立てる。<br>・テーマ、内容、相手、手段がピッタリしているかなぁ。<br>・全体のイメージは・・・図で表すと・・・。<br>・活動するにはどんなものが必要か。何を使ってデータを集めようか。<br>・研究内容が充実していないと見てもらう価値が低いだろう。 | ・活動のイメージが持てない子供には、今　まで行ってきた活動や作品を紹介する。<br>・発表の対象を意識させる。<br>・まとめのイメージ通りに表す方法を求め　てきたら、その方法を教える。 |
| ◇取材をしよう。（４時間＋課外）<br>①～④計画にもとづいて取材をしよう。<br>・データをデジタルカメラでとろうか普通のカメラでとろうか、ビデオでも・・・。<br>・データを整理しよう。<br>◇まとめをしよう。<br>活動が継続しているグループや取材が終わっているグループは、適宜取材をしながらまとめをしていく。 | ・カード形式でデータを整理させる。<br>・サーバーにファイルフォルダーを作って整理させる。<br>・情報機器の課外使用を求めてきた子供に対して機材と場を提供する。<br>・まとめのイメージを持たせる。<br>・取材をするときのマナーを意識させる。 |
| ◇まとめをしよう。（１２時間＋課外）<br>①～②<br>③～④<br>⑤<br>⑥<br>⑦～⑧<br>⑨～⑩<br>⑪～⑫<br>・イメージに沿ってまとめをしよう。<br>・友だちの研究やアドバイスを基にしてまとめよう。<br>・必要なデータが出てきたので取材をしよう。<br>・いろんなメディアを利用しよう。<br>・まとめのイメージは持てるけど、どうすればそうできるのだろう。<br>・友だちのアドバイスを生かしてまとめよう。<br>・イメージ通りにまとめるためには、どんなメディアを選ぶといいかなぁ。<br>・イメージ通りにまとめられた。<br>・まとめたデータを見てもらおう。<br>・これからも続けてやっていきたいなぁ。<br>◇中間報告会をしよう<br>・朝の会・終わりの会を利用して研究の報告会をしよう<br>◇研究経過を公開しよう　校内<br>・○○グループの□□がいいなぁ<br>・アドバイスのメッセージを書こう<br>・メッセージを生かしていこう | ・２時間単位の活動時間を確保することにより、子供たちの作業効率をあげる。<br>・アプリケーションの使い方、情報機器などの使い方を必要に応じて教える。<br>・技能的なことを子供同士助け合わせる。<br>・情報機器による多様な表現方法をみんなに広める。<br>・インターネットに載せるデータづくりを考えているグループには、子供たちが作った基礎データを教師や協力者が加工して子供のイメージ通りのものを作ってあげる。<br>・難しいと思われるデータ加工を考えているが、自分たちでやりたいというグループには作業カードで支援する。<br>・研究経過を公開しそれぞれの活動の中で情報交換する場（常設の公開掲示板、朝の会・終わりの会など）を設けることによって、互いの研究の質を高め合えるようにする。<br>・まとめた内容を信頼できるものにしたり充実させたりするために、いろんな人に見てもらったり意見を聞いたりする機会を持たせる。 |
| ◇発表会をしよう。（２時間）<br>①～②互いの作品のよさを見つけよう。<br>・いろんなまとめ方があり、それぞれのよさがあるんだ。 | ・プレゼンテーションの仕方を計画させ、研究内容をうまく主張できるように工夫させる。<br>・それぞれの研究のよさや問題点について情報交換し合えるように、みる視点について考えさせる。 |

### (3)　子供の意識の変化Ⅱ（「私の研究―いろいろなメディアを使って―」）

**◆本単元に入る前の子供の実態**

聞いてもらいたい，見てもらいたい対象がはっきりしていると，その人に対してどのようにま

とめていくことが大切なのかということを考えて活動できている。対象は，アドバイスをいただいた人であったり，メールをいただいた人であったり，取材した人であったりする。また，同時にそれらの人との関わりを深めていくなかで，研究内容を高めていこうとする活動ができている。

**◆第３次「まとめをしよう」が終わった時点での子供の意識**

本単元で新たにＤのカテゴリーを設定しなければならなくなった。人とのコミュニケーションを大切にしていこうと強く意識している子供たちが出てきたからだ。結果は表７の通りである。

**表７　「まとめをしよう」後の子供の意識（カテゴリー別）**

| | A | B | C | D | のべ人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ホームページ(人) | 12 | 15 | 28 | 19 | 74 |
| ３３人に対する% | 36.4 | 45.5 | 84.8 | 57.6 | |
| 本、模造紙など(人) | 2 | 1 | 1 | 2 | 6 |
| ３人に対する% | 66.7 | 33.3 | 33.3 | 66.7 | |
| 学級全体（人） | 14 | 16 | 29 | 21 | 80 |
| ３６人に対する% | 38.9 | 44.4 | 80.6 | 58.3 | |

### (4)　「私の研究―いろいろなメディアを使って―」のまとめ

前回の意識と比べてＡの機能・特性のカテゴリーが増え，Ｂの内容・プレゼンテーションのカテゴリーが減っているのが特徴的である。しかし，質的な変化も表れた。「意欲の中に成就感が見られるようになった」こと，「その意欲は機能・特性面とかかわった成就感を味わったことから出てきたものであったり，内容・プレゼンテーションとかかわって成就感を味わったことから出てきたもの」であったりしている。また，「見てもらう側のことを意識し，そこから生まれる成就感も伴っていること」だ。一方的な満足ということではない。このように，何らかの形で人との関わりを大切にしながら，追求活動をしていくことができた姿がよみとれる。子供の作文を紹介する。

情報の時間ですごく楽しかったこと　　河　野　美　幸

私は今まで，取材とかしに行ったり，いろいろコンピュータにまとめたりとかしてきて，楽しかったです。取材では，そこの店の人からいろいろな話を聞いたりしました。話を聞く時もくわしくおしえてくれたりして，話を聞くのが楽しかったです。その一つ一つの店がちがうから，当然話しもちがってきます。そこから，みんなに伝えたりするのにもコンピュータや模造紙にまとめたりしたけど，私はコンピュータの使い方がよくわからなくて（はじめのころ）本当にいけるのかなぁと思っていました。コンピュータを使っているうちにとっても便利で楽しいものだと分かりました。コンピュータはみんなに伝わって，すぐには見せられないけれど，見てもらうのもとってもうれしかったです。私は自分たちでたくさん調べてできあがったものを見てもらうのもすごくうれしかったです。私は調べているときは，いろいろなことが分かってくるからとっても楽しかったです。

学んだこと　　塩　津　宏　美

私は，いろいろ調べて，知っていくのがおもしろかったです。中国のことについて調べたときは，中国から留学生の方がわざわざ来てくれて，いろいろと協力してくれたおかげでとても助かりました。私は一学期の「服装について」よりも二学期の「中国の街を歩こう」の

方がたくさん学べたし内容も良かったと思います。難しかったのが，どうやったらみんな見てくれるか，みんなにわかりやすく説明するにはどうしたら良いかです。特に，調べたことや聞いたことは，だいたいか条書きだったから，文章にするのが難しかったです。また，私達が作ったものをみんな見てくれるかが心配でした。この学習を通じて，いろいろと学んだことがあります。それが前にかいていることや調べたことです。
三学期はあと少し，自分でも満足するものにしたいと思います。

子供たちの作文の中にもⅥの試みで「機能・特性面での成就感を味わわせることができたり，内容・プレゼンテーション面での成就感を味わわせることができた」ことがよみとれる。また，人との関わりを持つ中で，研究内容を深めるために自ら目標を設定し追求活動を行うことができたと言える。この型を「ヒューマンコミュニケーション型」とする。

## 4　メディアリテラシーの育ちの過程モデル

この2実践の中から，子供の意識を追い，それぞれの単元で考察したまとめをもとに，メディアリテラシーの育ちの過程を次のモデルに表した。

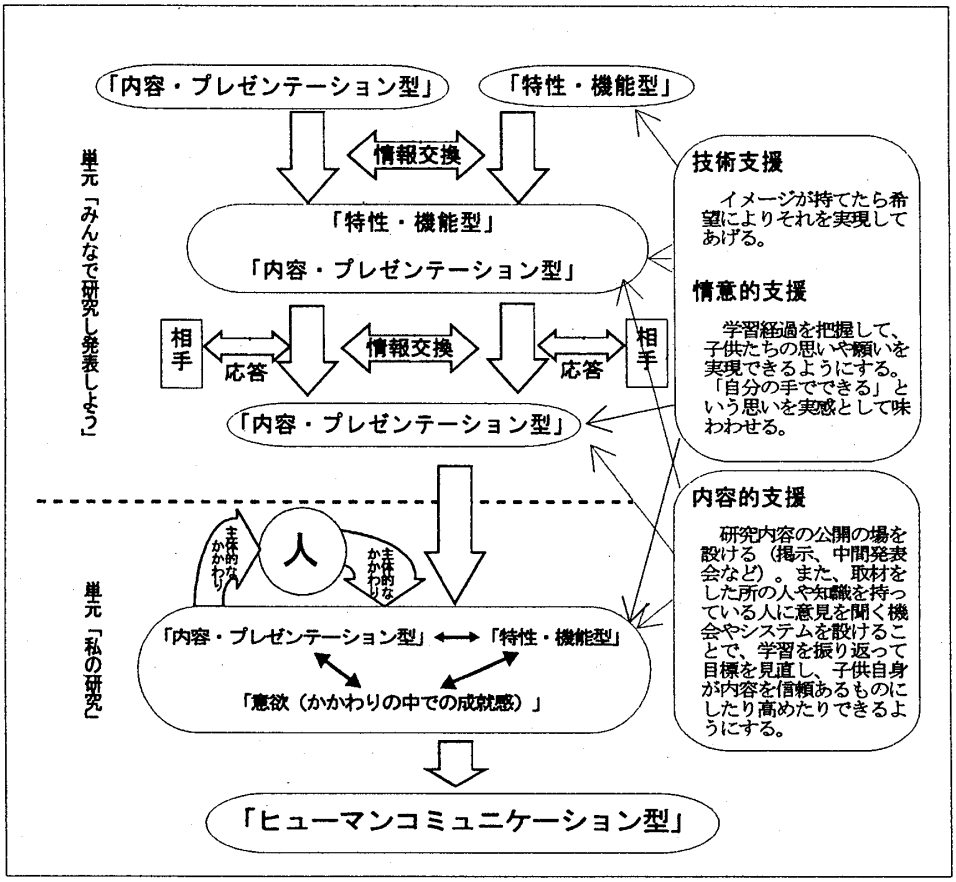



図2　メディアリテラシーの育ちの過程と周りとの関わり

（作品の一部を　http://www.aes.wakayama－u.ac.jp/sakuhin.html　に掲載している。）

**引用・参考文献**

坂本　昴，（1987），「メディア教育のすすめ」
吉田偵介，（1992），「映像を生かした環境教育」